

今日はII列王記10章から「主に対する熱心さ」と題して3つの点でそれぞれの聖書箇所の内容を確認し、第3の点の最後に私たちへの適用を学びたいと願います。

## 1. アハブの家の滅び 1-17

エフーは9章でエリシャから遣わされた若者の預言者から、イスラエルの王となるための油注ぎを受けました。エフーにはアハブの家を滅ぼすという神のさばきを行う使命を神から与えられました。エフーはこの使命を果たすためにイスラエルの王アハブの子のヨラムとヨラムに協力するユダの王アハズヤ、そしてイスラエルにバアル信仰をもたらしたアハブの妻イゼベルを殺しました。今日はその続きで、エフーはアハブの家を完全に滅ぼします。

1-6【1 アハブにはサマリアに七十人の子どもがあった。エフーは手紙を書いてサマリアに送り、イズレエルの長たちや長老たち、および、アハブの子の養育係たちにこう伝えた。2「この手紙が届いたら、あなたがたのところに、あなたがたの主君の子どもたちがいて、戦車や馬も、城壁のある町や武器も、あなたがたのところにあるのだから、すぐ、3 あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。4 彼らは非常に恐れて言った。「二人の王たちでさえ、彼に当たることができなかったのに、どうしてこのわれわれが当たることができるだろうか。」5 そこで、宮廷長官、町のつかさ、長老たち、および養育係たちは、エフーに人を送って言った。「私どもはあなたのしもべです。あなたが私どもにお命じになることは何でもいたしますが、だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください。」6 エフーは再び彼らに手紙を書いてこう言った。「もしあなたがたが私に味方し、私の声に聞くのなら、あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」そのころ、王の子どもたち七十人は、彼らを養育していた町のおもだった人たちのもとにいた。】

アハブの子ども70人がサマリアに住んでいました。エフーはサマリアに手紙を送り、「アハブの子ども一人を王に立てて、私と戦え」との挑戦状を送りました。サマリアの指導者は非常に恐れ、エフーに対し「自分たちはあなたのしもべであり、戦う意思もないし、お気に召すようにしてください」と返事を送りました。するとエフーは「アハブの子どもたちの首を取り、明日の今頃、イズレエルの私のもとに持って来るように」と伝えました。

7-11【7 その手紙が彼らに届くと、彼らは王の子どもたちを捕らえ、その七十人を切り殺し、その首をいくつかのかごに入れ、それをイズレエルのエフーのもとに送り届けた。8 使者が来て、「彼らは王の子どもたちの首を持って参りました」とエフーに報告した。すると彼は、「それを二つに分けて積み重ね、朝まで門の入り口に置いておけ」と命じた。9 朝になるとエフーは出て行き、立ってすべての民に言った。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。10 だから知れ。主がアハブの家について告げられた主のことばは一つも地に落ちないことを。主は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」11 エフーは、アハブの家に属する者でイズレエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がいないまでにした。】

サマリアの指導者はエフーの指示通り、アハブの子ども70人を殺し、その首を幾つかのかごに入れ、イズレエルのエフーのもとに送り届けました。エフーはそのかごを朝まで門の入り口に置かせ、見せしめにしました。翌朝、エフーはイズレエルの民に言いました。「この出来事は主がアハブの家についてエリヤに告げられたことを、私が行ったのであり、あなたがたに罪はない。」さらにエフーはイズレエルにいるアハブに属する者を根絶やしにしました。

12-14【12 それから、エフーは立ってサマリアへ行った。その途中、羊飼いのベテ・エケデというところで、13 エフーはユダの王アハズヤの身内の者たちに出会った。彼が「おまえたちはだれか」と聞くと、彼らは、「私たちはアハズヤの身内の者です。王の子どもたちと、王母の子どもたちの安否を尋ねに下って来ました」と答えた。14 エフーが「彼らを生け捕りにせよ」と言ったので、人々は彼らを生け捕りにした。そして、ベテ・エケデの水溜め場で彼ら四十二人を殺し、一人も残さなかった。】

エフーはサマリアに行く途中、アハズヤの身内の者42人と出会い、彼らを捕らえて殺しました。ユダの王アハズヤがアハブの家に協力したからです。

15-17【15 彼がそこを去って行くと、彼を迎えに来たレカブの子ヨナダブに出会った。エフーは彼にあいさつして言った。「あなたの心は、私の心があなたの心に対してそうであるように、真っ直ぐですか。」ヨナダブは、「そうです」と答えた。「そうなら、こちらに手を伸ばしなさい。」ヨナダブが手を差し出すと、エフーは彼を戦車の上に引き上げて、16「私と一緒に来て、主に対する私の熱心さを見なさい」と言った。エフーは彼を自分の戦車に乗せて、17 サマリアに行った。エフーは、アハブに属する者でサマリアに残っていた者を皆殺しにし、その一族を根絶やしにした。主がエリヤにお告げになったことばのとおりであった。】

レカブはケニ人の子孫です。ケニ人はモーセのしゅうとの一族で、ユダ族と共にカナン之地に来て住みました。彼らは主を信じる遊牧民でした。そのレカブの子ヨナダブは、エフーを助けるためにやって来ました。エフーはそのことを知ると「私と一緒に来て、主に対する私の熱心さを見なさい」と言って、彼を自分の戦車に乗せ、サマリアに行きました。そしてアハブの一族を根絶やしにし、こうして、主がエリヤに告げられたことが成就しました。

## 2. バアル信者の滅び 18-27

18-21【18 エフーはすべての民を集めて、彼らに言った。「アハブは少ししかバアルに仕えなかったが、エフーは大いに仕えるつもりだ。19 だから今、バアルの預言者や、その信者、およびその祭司たちをみな、私のところに呼び寄せよ。一人も欠けてはならない。私は大いなるいけにえをバアルに献げるつもりである。列席しない者は、だれも生かしてはおかない。」エフーは、バアルの信者たちを滅ぼすために、策略をめぐらしたのである。20 エフーが、「バアルのためにきよめの集会を催せ」と命じると、彼らはこれを布告した。21 エフーが全イスラエルに人を遣わしたので、バアルの信者たちがみなやって来た。残っていて、来なかった者は一人もいなかった。彼らがバアルの神殿に入ると、バアルの神殿は端から端までいっぱいになった。】

エフーはイゼベルがイスラエルにもたらしたバアル信仰が、イスラエルを墮落させた原因と考えました。そこでバアルの信者たち全員を滅ぼすために策略をめぐらしました。彼は「エフーはバアルに大いに仕え、大いなるいけにえをバアルにささげるので、すべてのバアル信者はだれ一人欠けることなく集まるように」と告げました。その知らせを聞いたバアルの信者はみなやって来て、バアルの神殿は超満員となりました。

22-27【22 エフーが衣装係に、「バアルの信者すべてに祭服を出してやれ」と命じたので、彼らのために祭服を取り出した。23 エフーとレカブの子ヨナダブは、バアルの神殿に入り、バアルの信者たちに言った。「よく見回して、ここには主のしもべがあなたがたと一緒に一人もおらず、ただバアルの信者たちだけがいるようにせよ。」24 こうして彼らは、いけにえと全焼のささげ物を献げる準備をした。エフーは八十人の者を神殿の外に配置して言った。「私がおまえたちの手に渡す者を一人でも逃す者があれば、そのいのちを、逃れた者のいのちに代える。」25 全焼のささげ物を献げ終えたとき、エフーは近衛兵と侍従たちに言った。「入って行って、彼らを討ち取れ。一人も外に出すな。」そこで、近衛兵と侍従たちは剣の刃で彼らを討って投げ捨て、バアルの神殿の奥の間にまで踏み込んだ。26 そして、バアルの神殿の石の柱を運び出して、これを焼き、27 バアルの石の柱を打ち壊し、バアルの神殿も打ち壊し、これを便所とした。それは今日まで残っている。】

エフーはバアルの信者であることがわかるように、祭服を着させ、バアルの信者だけがいるようにしました。そして、神殿内でいけにえをささげている間に、外では80人の近衛兵と侍従を配置させました。いけにえをささげ終えた時、近衛兵たちを中に入れ、バアルの信者全員を殺し、バアルの神殿を破壊し、これを便所としました。

### 3. エフーの熱心さと不信仰 28-36

28-31【28 このようにして、エフーはバアルをイスラエルから根絶やしにした。29 ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛に仕えることから離れようとはしなかった。30 主はエフーに言われた。「あなたはわたしの目にかなったことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行ったので、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」31 しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、主の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪から離れなかった。】

エフーには2面性がありました。一つは主に対する熱心さによって、アハブの家を滅ぼすという使命を果たしたことです。主も「わたしの目にかなったことをよくやり遂げたので、あなたの子孫は4代目までイスラエルの王座に就く」と言われました。一方で主に対する不信仰です。彼はヤロブアムが作った金の子牛に仕え、主の律法を守らず、他のイスラエルの王と同じようにヤロブアムの罪から離れませんでした。

32-33【32 そのころ、主はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。ハザエルがイスラエルの全領土で彼らを打ち破ったのである。33 すなわち、ヨルダン川の東側、ガド人、ルベン人、マナセ人のギルアデ全土、つまり、アルノン川のほとりにあるアロエルからギルアデ、バシヤンの地方にまで及んだ。】

エフーの不信仰の結果、イスラエルのヨルダン川東岸の領土はアラムの王ハザエルによって奪われてしまいました。

34-36【34 エフーについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。35 エフーは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子エホアハズが代わって王となった。36 エフーがサマリアでイスラエルの王であった期間は二十八年であった。】

バアル信仰をイスラエルにもたらし、神に逆らったアハブ家が滅びたことは、神のさばきであり、エフーはそのために用いられました。彼はサマリアで28年間イスラエルの王となり、彼の死後、主の約束通り、彼の子孫4代が王となりました。エフーの次の王には彼の子エホアハズがなりました。

### 4. 私たちへの適用

さて、最後に今日の箇所、新約時代に生きる私たちへの適用を見ていきます。エフーは16節でヨナダブに「私と一緒に来て、主に対する私の熱心さを見なさい」と言いました。確かにエフーは主に対する熱心さによってアハブの家を滅ぼしました。一方で彼は、主に対する不信仰をもって生きたのです。では今日、新約の民である私たちが持つべき主に対する熱心さとはどのような信仰でしょうか。3つのことをお話しします。

1つ目は、旧約時代と新約時代の違いです。旧約聖書には戦いがあり、今日の箇所のように神のさばきとしてのエフーによるアハブ家とバアルの信者を武力で殺すという箇所が出てきます。しかし、新約聖書では、神は教会とクリスチャンに対して武器をもって戦うことを教えていません。イエスは言われました。「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」(マタイ 5:9)「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」(マタイ 5:44)「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」(マタイ 26:52) 旧約聖書における戦いは、新約聖書には教えられていないことを覚えましょう。旧約聖書を読むときには、新約時代との違いを意識し、私たちは古い契約の民ではなく、キリストによる新しい契約の民として生きていることを覚えましょう。

2つ目は、私たちが持つべき主に対する熱心さとは何かということです。それは私たちの外に現れる行いよりも、私たちの内に持つ主との深い交わりにあるということです。エフーは行いにおいては主に対して熱心でしたが、内側においては不信仰でした。私たちはエフーのような極端な2面性を持つことはないと思いますが、熱心に奉仕や伝道をするが、主との交わりを十分持っていないということが起こりえます。信仰の熱心さとは、まず日々の生活の中で祈りとみことばの時間を持ち、主との交わりをもって、主に信頼する信仰に堅く立つことです。その信仰が日々の生活の中で行いとなって現れます。先日で紹介された三浦綾子の「夕あり朝あり」というクリーニング店白洋舎の創業者五十嵐健司についての本を読みました。日本初のドライクリーニングを研究して取り入れた五十嵐さんはことあるごとに、その時々与えられたみことばを信じ、様々な困難を乗り越えて事業を行い、キリストを証したことがわかりました。心の内にある信仰の熱心さが、外側の生活に現れるのです。

3つ目は熱心に従う主のみこころは何かということです。聖書には様々は主のみこころを教える箇所がありますが、今日は先日祈禱会で学んだⅡテモテ 2:22 を覚えたいと願います。こうあります。「あなたは若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちと共に、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」特に後半の「義と信仰と愛と平和を追い求めなさい」から、私たちが熱心になるべき主のみこころを教えられます。まず「義」正義、公正、公平という正しさ、次に「信仰」神との深い交わりを持つ信仰と主への信頼、次に「愛」神と隣人を愛する愛、そして「平和」神との平和と人との平和、これらのことに熱心になることが、新約の民である私たちにとっての主に対する熱心さであることを覚えましょう。新約の主の民として義と信仰と愛と平和という主のみこころに熱心な者としましょう。